

取扱説明書

業務用油だき可搬形ヒータ・熱風式直火形
オリオンジェットヒーターHP

HPE250 HPE370



- この機械は物の加温、乾燥を目的とした「業務用」ヒーターです。
- 家庭用として使わないでください。
- 火力が強いため、火災、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- この取扱説明書をよく読んでヒーターを正しくお使いください。
- 取扱説明書は必ず保管しておいてください。



ガソリン厳禁



換気必要
(1時間に1～2回)

巻末が保証書となっています。
大切に保管してください。

03102432010

はじめにお読みください

このたびは、オリオン製品をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。

より安全に、また良好な状態でお使いいただくために、この「取扱説明書」をお読みになり、正しくお使いください。

安全上のご注意

ご使用の前に「安全のために必ずお守りください」をよくお読みの上、正しくお使いください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、 危険  警告  注意に区分して表示してあります。



危険

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重症を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定されるもの



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重症を負う可能性、または火災の可能性が想定されるもの



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や、物的損害の発生が想定されるもの

また、 注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。

いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

- ・取扱説明書をお読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。
- ・お使いになっている製品を譲渡されたり、貸与されるときには、新しく使用者となられる方が安全な正しい使い方を知るために、この取扱説明書を製品本体の目立つところに添付してください。

■図記号について

	 記号は、危険・警告・注意を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合はやけど注意）が描かれているものは、その行為を表します。
	 記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は改造禁止）が描かれているものは、その行為を表します。
	 記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれているものは、その行為を表します。
	 記号は、警告・注意以外の重要な事項を示します。
	 記号は、詳細・関連情報の参照先を示します。

■本文内の説明写真、図は HPE370 を使用していますが、特に断りのない限り他の機種も同様です。

■機構および仕様等は予告なく変更する場合があります。その際には、本書の内容と一部異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

も く じ

安全のために必ずお守りください	3
本体警告ラベル貼付位置	9
各部のなまえ	10
使用前の準備と確認	11
使い方	13
点検・手入れのしかた	18
定期点検	22
異常のとき	23
消耗部品	25
アクセサリ（別売品）	26
保管のしかた	27
廃棄について	27
アフターサービス	28
仕様（HPE250）	29
仕様（HPE370）	30

安全のために必ずお守りください

使用上の注意（危険）

この章に記載する事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するための安全上の重要事項です。この製品を使用する前にお読みになり、必ずお守りください。

危険

	ガソリン厳禁 灯油（JIS1 号）を必ず使用してください。ガソリンなどの揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。爆発、火災の原因になります。
	可燃性ガスおよび引火性液体厳禁 可燃性ガスを発生するもの（シンナー、ガソリン、LPG など）を使用しているところや置いてあるところでは、ヒーターを絶対に使用しないでください。爆発、火災の原因になります。
	換気必要 使用中は1 時間に1~2 回必ず換気してください。換気せずに使用し続けると、酸素不足により不完全燃焼し、一酸化炭素中毒の原因になります。 密閉された空間での使用厳禁 新鮮な空気が常に供給できるように、空気取入口や排気口を必ず設けてください。換気が十分行われない場所で使用し続けると、酸素不足により不完全燃焼し、一酸化炭素中毒の原因になります。
	改造厳禁 改造は絶対にしないでください。製品故障の原因になるばかりでなく、火災・やけど・不完全燃焼による中毒など、重大な事故の原因になります。

安全のために必ずお守りください

使用上の注意（警告）



警告



変質灯油、不純灯油使用厳禁

変質灯油や不純灯油は使用しないでください。異常燃焼や火災の原因になります。

スプレー缶厳禁

スプレー缶など密閉容器を暖めたり、熱風の当たるところに放置しないでください。熱でスプレー缶などの圧力が上がり、爆発の原因になります。

可燃性粉塵厳禁

可燃性粉塵（木くず、紙くず、繊維くず、鉄粉など）が発生するところでは使用しないでください。ヒーターに吸い込まれると、加熱され火の粉になって噴き出され火災の原因になります。

水のかかるところ、湿気の多いところでの使用禁止

本製品は屋内仕様です。雨水、雪などのかかるところおよび湿気の多いところでは使用しないでください。また、濡れた手で操作しないでください。故障や感電、火災の原因になります。

ダクト直接接続厳禁

熱風吹出口に直接ダクトを接続しないでください。異常燃焼や火災の原因になります。

空気取入口および熱風吹出口をふさがない

空気取入口や熱風吹出口をふさがないでください。また、周囲のシート等が空気取入口に貼り付かないように注意してください。異常燃焼や火災の原因になります。

電源コードを破損させたり加工しない

電源コードに重いものを載せたり、加熱したり、引っばったり、はさみ込んだり又は加工しないでください。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

車両への据え付け、積載したままでの使用禁止

車両への据え付けや積載したままで使用しないでください。故障や火災の原因になります。



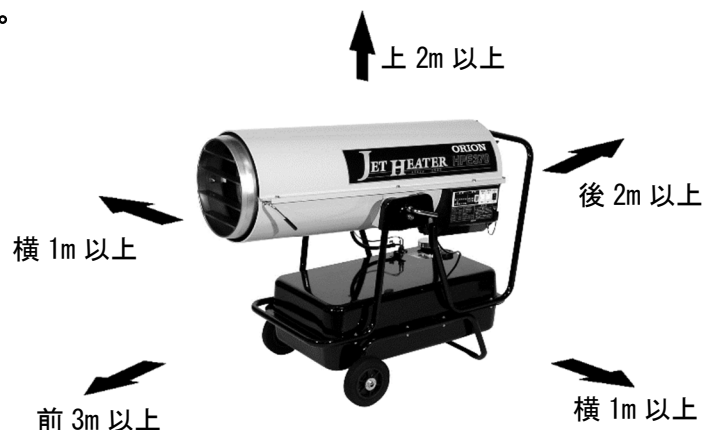
回転物に注意

運転中、内部の送風ファン、燃焼ファンは高速で回転しています。外筒カバー、保護網を絶対に開けないでください。送風ファン、燃焼ファンに触れるとケガの原因になります。



周囲の可燃物に注意

ヒーター周囲の天井、壁面等の可燃物との距離は、下図の距離を確保してください。また、熱風吹出角度を調整する際には、床面等が高温にならないように注意してください。火災の原因になります。



安全のために必ずお守りください

使用上の注意（警告）



	正常燃焼の確認 使用するたびに正常に燃焼していることを確認してください。（☞18 ページ「点検・手入れのしかた」参照）炎の飛び出し、におい、すすの発生など異常を確認したときは、直ちに使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。異常のまま使用を継続すると、ヒーター本体の焼損や火災の原因になります。
	点検、手入れ時、電源プラグを抜く 点検、手入れ時およびアクセサリー（別売品）の取り付けの際には、必ず電源プラグをコンセントから抜いて作業してください。感電や送風ファン、燃焼ファンによるケガの原因になります。また、空気取入口の保護網が変形、破損した場合は使用をやめ、お買い上げの販売店にご相談ください。

安全のために必ずお守りください

使用上の注意（注意）



注意



振動の激しいところや水平でないところでの使用禁止

振動がなく水平な場所で使用してください。振動が激しい場所や水平でない場所で使用すると、ヒーターが移動したり転倒したりして、**火災の原因**になります。

通路や子供のいる場所での使用に注意

階段、避難口および部屋の出入口などでは使用しないでください。人がぶつかり、やけどなどの**事故の原因**になります。また、子供のいる場所では、ガードを設置したり管理者をおくなどして、特に安全管理に注意してください。

風に注意

風の強い場所では使用しないでください。可燃物が熱風吹出口付近に飛来すると、**火災の原因**になります。また、飛来物が空気取入口に貼り付くと、**異常燃焼の原因**になります。

磁気や高周波に注意

磁気や高周波の強い場所では使用しないでください。予期せぬ製品の誤動作等により**火災等のおそれ**があります。

腐食性ガスに注意

腐食性ガスの発生するところでは使用しないでください。製品の故障や漏電による、**感電、火災の原因**になります。

使用例	代表的な腐食性物質
塗装・メッキ工場	塩酸・硫酸・フッ酸・リン酸・クロム酸・ベンゼン・トルエン・キシレン
プール	塩素
畜産	アンモニア・次亜塩素酸ナトリウム・塩酸・赤リン

点火操作の繰り返し禁止

燃料切れ以外で点火操作を3回繰り返しても点火しない場合は、それ以上操作をしないで、お買い上げの販売店にご相談ください。点火操作を4回以上繰り返して点火したときには、熱風吹出口より炎や煙が出ることがあります。また、**火災の原因**になります。

電源プラグでの消火禁止

電源プラグをコンセントから抜いて消火しないでください。また、冷却運転中に電源プラグを抜かないでください。冷却が不完全となり、**火災、やけど、焼損の原因**になります。

運転中の移動禁止

運転中は移動しないでください。やけどのおそれがあります。転倒すると**火災の原因**になります。

灯油を入れたまま保管、廃棄しない

保管および廃棄するときは、必ず油タンクを空にしてください。温度変化で空気が結露して油タンク内に水がたまり、油タンク底に錆が発生します。油タンクの腐食による穴あきで、油タンク内の灯油が漏れて**環境汚染や火災の原因**になります。また、長期間保管した灯油は変質し、それを使用すると**不完全燃焼の原因**になります。

点火操作後の熱風吹出口接近禁止

点火操作後、熱風吹出口をのぞき込まないでください。やけどのおそれがあります。

標高の高いところでの使用禁止

標高 1000m 以下で使用してください。1000m を超える場所で使用すると、燃焼空気量不足により**異常燃焼の原因**になります。

安全のために必ずお守りください

使用上の注意（注意）



注意



やけどに注意

燃焼中や消火直後は、ルーバー、外筒カバーなどは高温になっています。燃焼中および消火後 30 分間は手を触れないでください。**やけどのおそれがあります。**



電源に注意

電源電圧は AC100±10V の範囲内で使用してください。AC200V 電源には絶対に接続しないでください。制御基板が故障します。また、タコ足配線はしないでください。**故障や感電、火災の原因になります。**

動物飼育施設での使用に注意

下記内容が想定されますので、特に注意して使用してください。

- ・ 敷きワラ、オガ粉等の可燃物は火災のおそれがありますので、特に注意してください。
- ・ 換気が不十分になると**酸欠や一酸化炭素中毒により家畜が死亡するおそれがあります**ので、使用中は 1 時間に 1～2 回換気をしてください。
- ・ 安全装置の作動などによりヒーターが自動消火し**家畜が凍死**する場合も想定されますので、使用中は定期的に運転状態を確認してください。
- ・ 家畜がヒーターを倒したり壊す等して、**火災の原因**になったり、家畜が長時間温風にあたり**低温やけどや脱水症状**になるおそれがありますので、家畜がヒーターに近づきすぎないように、柵などの施設を設置してください。

周囲温度に注意

周囲温度は-20～40℃の範囲で使用してください。40℃を超える温度で使用するとヒーターが過熱して、**火災の原因**になります。

給油時消火

給油時は必ず消火し、ヒーターが十分に冷えてから行ってください。高温のとき（送風ファンが自動停止する前）に給油すると**火災・やけどの原因**になります。

運転スイッチの切り忘れに注意

サーモスタット、タイマを取り付けて運転すると、自動的に点火・消火を繰り返します。（サーモスタット、タイマはアクセサリー（別売品））ヒーターを使用しないときは、必ず運転スイッチを「切」にして電源プラグをコンセントから抜いてください。**火災の原因**になります。

スイッチ操作は確実にこなう

スイッチ操作は確実にこない、完全にスイッチを倒した状態で使用してください。スイッチを中間位置で使用した場合は送風ファンが停止して**異常燃焼による火災や故障の原因**になります。

サーモスタット感温部設置場所に注意

サーモスタットを取り付けた場合、サーモスタットの温度感知部は温風が直接当たる所に置かないでください。頻繁に ON（燃焼）／OFF（消火）を繰り返し、故障の原因になります。

ハンドルは確実に締め付ける

熱風角度調整後はハンドルを確実に締め付けてください。締め付けが不十分な場合、運転中に角度が変わり火災のおそれがあります。

安全のために必ずお守りください

使用上の注意（注意）



注意

	ルーバーハンドルで角度を調整する ルーバーハンドルのグリップ部を持って角度調整してください。他の箇所には触れないでください。高温になっているためやけどのおそれがあります。 空気取入口側以外による角度調整の禁止 外筒の空気取入口側以外を持って角度調整をしないでください。高温部に触れるとやけどのおそれがあります。 製品の傾きに注意 製品を必要以上に傾けないでください。転倒により、ケガをするおそれがあります。また、油タンクから灯油が漏れ、環境汚染や火災の原因になります。 自動車運搬時に注意 自動車に積載して運搬するときは、灯油を抜き、転倒防止の処置を行ってください。転倒や振動により油タンク内の灯油が漏れると火災の原因になります。 点検時保護手袋着用 ヒーターの清掃や炎検出器の点検の際は、ケガの防止のため、軍手などの保護手袋を着用して作業してください。 燃焼状態は離れて確認する 燃焼状態の確認は、やけどなどの事故を防止するため、ヒーターから 3m 以上離れて行ってください。 電源コードは先端のプラグを持って抜く コードを持って抜くと、芯線の一部が断線して、発熱・発火などの原因になります。 消火の確認 消火をしたときは、火が完全に消えていることを確認してから離れてください。火がついたままだと、火災の原因になります。 持ち上げ移動する場合は二人作業で行なう ヒーターを持ち上げて移動する場合は、灯油を抜き、タンク部の脚、把手を持ち、二人以上で行ってください。一人作業で行なうとケガの原因になります。 延長コードは許容電流を確認し、正しく使用する 延長コードを使用する場合は、許容電流を確認してください。（☞17 ページ「延長コードを使用する場合」参照）また、巻いたまま、束ねたまま使用しないでください。発火・発熱などの原因になります。
	使用時以外は電源プラグを抜く 使用時以外は、電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になります。
	アースは必ず接地する ヒーターを使用するときはアースコードを必ず接地してください。（☞13 ページ「点火のしかた」参照）感電の原因になります。

本体警告ラベル貼付位置

使用上の注意（本体警告ラベル貼付位置）

⚠ 本体警告ラベル貼付位置

次の警告ラベルは、警告事項の中から特に重要なものとして厳選されておりヒーター本体に貼付されています。ご使用前に必ずお読みください。また、汚れ、傷などで見えにくくなった場合には、お買い上げの販売店に連絡し、新しいものに貼り替えてください。（有償扱いとなります。）

⚠ 警告	家庭用として使わないでください。
	1. この機械は物の加温、乾燥を目的とした「業務用」ヒーターです。 2. 家庭用として使わないでください。 火力が強いため、火災、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
ジェットヒーター HP 用	03103871010

⚠ 注意	点火操作の繰り返し禁止
	燃料切れ以外で、点火操作を 3 回繰り返しても点火しない場合は、それ以上操作をしないでください。点火操作を 4 回以上繰り返して点火した時には、熱風出口より炎が出る場合があります。また火災の原因にもなります。 お買い上げの販売店にご相談ください。
ジェットヒーター HP 用	04104305010



⚠ 危険
ガソリン厳禁 必ず灯油（JIS 1 号灯油）を使用 04041002010

⚠ 安全のため正しくお使いください。			
⚠ 危険 使用中は必ず換気をして 新鮮な空気を補給せよ	⚠ 警告 日常の点検・手入れは 電源プラグをコンセントから抜け	⚠ 注意 やけどの恐れあり 手などを触れるな	⚠ 高温注意 周囲温度 40℃ 以下で使用せよ

各部のなまえ

外観／スイッチパネル／外筒カバーを開けると

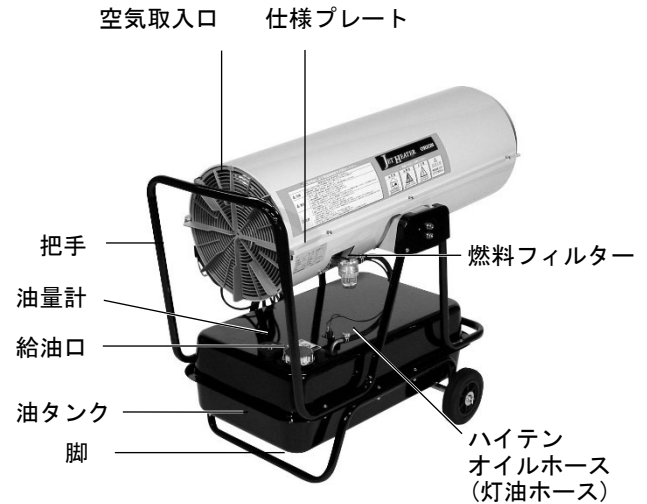
外観

■外観

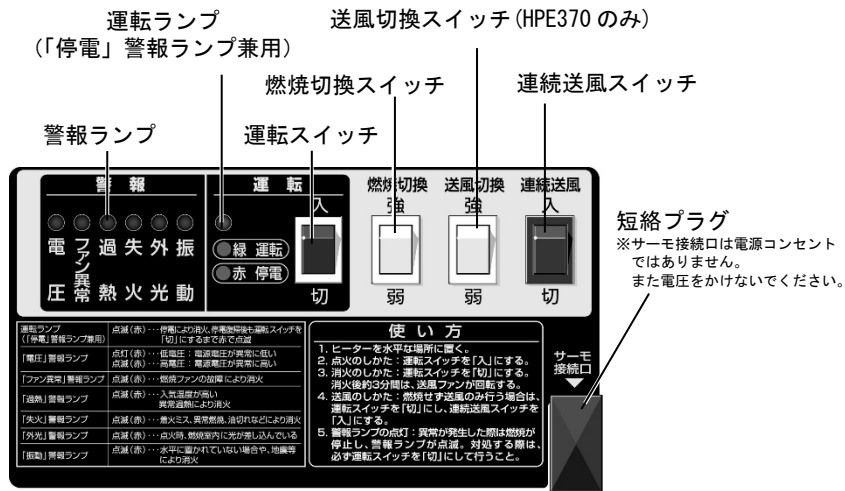
前面



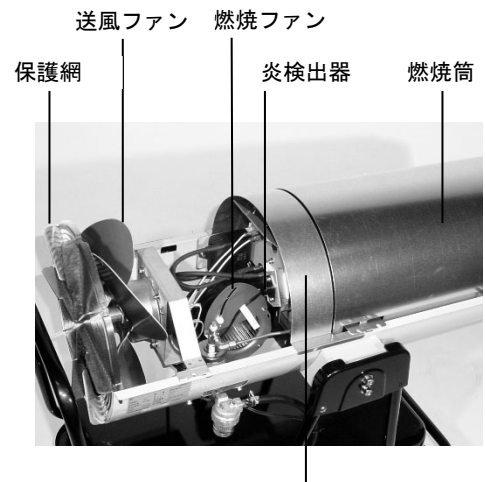
裏面



■スイッチパネル



■外筒カバーを開けると



しゃ熱板 2 (HPE370 のみ)

運転スイッチ	
運転ランプ (「停電」警報ランプ兼用)	点滅 (赤) … 停電により消火、停電復帰後も運転スイッチを「切」にするまで赤で点滅
「電圧」警報ランプ	点灯 (赤) … 低電圧：電源電圧が異常に低い 点滅 (赤) … 高電圧：電源電圧が異常に高い
「ファン異常」警報ランプ	点滅 (赤) … 燃焼ファンの故障により消火
「過熱」警報ランプ	点滅 (赤) … 入気温度が高い、異常過熱により消火
「失火」警報ランプ	点滅 (赤) … 着火ミス、異常燃焼、油切れなどにより消火
「外光」警報ランプ	点滅 (赤) … 点火時、燃焼室内に光が差し込んでいる
「振動」警報ランプ	点滅 (赤) … 水平に置かれていない場合や、地震等により消火
サーモ接続口 (短絡プラグ)	サーモ接続口は電源コンセントではありません。 また、電圧をかけないでください。

使用前の準備と確認

使用する場所／燃料／点火前の準備

使用する場所

「安全のために必ずお守りください」をよくお読みになり、使用する場所には特に注意願います。

燃料



危険

- 灯油（JIS1 号）を必ず使用してください。ガソリンなどの揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。爆発、火災の原因になります。



警告

- 変質灯油や不純灯油は使用しないでください。異常燃焼や火災の原因になります。

●使用燃料について

1. 燃料は JIS1 号灯油を使用する。
2. 変質灯油や不純灯油は使用しない。

●変質灯油とは

- ・古い灯油（昨シーズンより持ち越した灯油）
- ・日光の当たる場所で長期間保管したもの
- ・温度の高い場所で長期間保管したもの

●不純灯油とは

- ・灯油以外の油（ガソリン、シンナー、機械油、重油など）が混入したもの
- ・水やゴミが混入したもの

●変質灯油、不純灯油が入っているとき

- ・油タンク内の悪い灯油を抜き取り、良質の灯油と入れ替えてください。（「油タンクの掃除」▶20 ページ参照）

灯油とガソリンの見分けかた

指先につけ、息を吹きかけます。
（火の気のない所でしてください。）

灯油



濡れたまま。

ガソリン



すぐ乾いてしまう。

点火前の準備

1. 梱包箱からヒーターを取り出す。
 - ・ヒーター各部の梱包部材やチラシをすべて取り除く。
2. 据え付ける。
 - ・水平な場所に置く。
 - ・ヒーターの近くに燃えやすいものが置いてないか確認する。

使用前の準備と確認

給油のしかた

給油のしかた



注意

●給油時は必ず消火し、ヒーターが十分に冷えてから行ってください。高温のとき（送風ファンが自動停止する前）に給油すると火災・やけどの原因になります。

1. 給油口キャップを外す。
2. 油量計の目盛を確認しながら給油する。
 - ・給油口フィルターは外さずに給油してください。タンク内にゴミ等が入りますと送油回路の詰まりの原因になります。
 - ・いきおいよく給油すると給油口から灯油があふれることがあります。給油はゆっくりと行ってください。
 - ・油量計の目盛は、「F」を超えて給油しないでください。灯油があふれます。
3. 給油が終わったら給油口キャップを確実に締め付ける。

使い方

点火のしかた

点火のしかた



注意

- 電源 AC100V です。AC200V コンセントには絶対に差し込まないでください。故障や感電、火災の原因になります。
- アースコードは必ず接地して使用してください。感電の原因になります。
- 燃料切れ以外で、点火操作を 3 回繰り返しても点火しない場合は、それ以上操作をしないでください。点火操作を 4 回以上繰り返して点火したときは、熱風吹出口より炎が出ることがあります。また、火災の原因になります。お買い上げの販売店にご相談ください。

1. 電源プラグを AC100V コンセントに差し込む。

- ・運転ランプが赤色に点滅（停電安全装置作動）した場合は、運転スイッチが「入」になっています。運転スイッチを「切」にした後、点火操作をしてください。
- ・電圧警報ランプが点灯または点滅していないことを確認してください。

2. 電源プラグから出ているアースコードを接地してください。

3. 運転スイッチを「入」にする。

4. 約 10 秒後に点火します。

- ・お買い上げ後初めての運転時や燃料切れした給油後の運転時は、運転スイッチ「入」後、燃料ポンプから「ガチャガチャ」と音がし、失火警報が出ます。この場合は、運転スイッチを「切」にし、点火操作を 2~3 回繰り返すと点火します。（油タンク内の灯油が少量で、ヒーターを運搬、移動した場合にも、同様な現象となる場合があります。）

重要事項

- 電圧警報ランプが点滅（電源電圧が異常に高い）した場合は、即座に電源プラグをコンセントから抜いてください。警報が出ても、ヒーターには過電圧がかかったままになっています。
- 燃料切れによる消火時や、燃料切れした給油後の運転時には、熱風吹出口から炎が飛び出したり、油滴が飛び出す場合がありますので、注意してください。炎や油滴の飛び出しを防止するためには、燃料切れをおこす前に給油してください。
- 点火時および消火時、燃焼筒より熱の膨張・収縮により「トン、トン」と音がする場合がありますが、異常ではありません。

使い方

消火のしかた／燃焼切替のしかた／送風切替のしかた

消火のしかた



注意

- 電源プラグをコンセントから抜いて消火しないでください。また、冷却運転中に電源プラグを抜かないでください。ヒーター内部が過熱し、火災、やけどや故障の原因になります。
- 消火直後は、ルーバー、外筒カバーなどは 100℃以上の高温になっています。燃焼中および消火後 30 分間は手をふれないでください。

1. 運転スイッチを「切」にする。

- ・約 3 分間冷却運転を行った後、自動停止します。

燃焼切換えのしかた

1. 燃焼スイッチを「強」または「弱」に切換える。

- ・点火後 30 秒間は、強制的に強燃焼を行います。

送風切換えのしかた（HPE370 のみ）



注意

- スイッチ操作は確実にしない、完全にスイッチを倒した状態で使用してください。スイッチを中間位置で使用した場合は送風ファンが停止して異常燃焼による火災や故障の原因になります。

1. 送風スイッチを「強」または「弱」に切換える。

使い方

連続送風の運転のしかた／熱風吹出角度の調整のしかた

連続送風の運転のしかた

1. 連続送風スイッチを「入」にする。

- ・運転スイッチ「入」の状態ですば連続送風スイッチを「入」にすると、運転スイッチを「切」にしても送風ファンが運転し続けます。

熱風吹出角度の調整のしかた



警告

- 熱風吹出角度調整時には、床面等が高温にならないように注意してください。火災や床面変色の原因になります。



注意

- ルーバーハンドルをグリップ部を持って角度調整してください。他の箇所には触れないでください。高温になっているためやけどのおそれがあります。
- 外筒の空気取入口側以外を持って角度調整をしないでください。高温部に触れるとやけどのおそれがあります。
- 角度調整後はハンドルを確実に締め付けてください。締め付けが不十分な場合、運転中に角度が変わり火災のおそれがあります。

1. ルーバーによる角度調整

ルーバーハンドルを操作し、任意の角度に調整してください。
水平から上下各 20° までルーバーの向きを変えられます。

ルーバーハンドル



グリップ

使い方

熱風吹出角度の調整のしかた

2. 外筒による角度調整

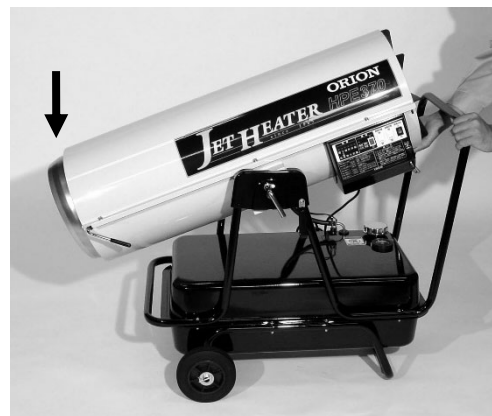
(1) ハンドルをゆるめる。



(2) 外筒の空気取入口側の上部または下部を持って角度を変える。

- ・ 水平から上下各 20° まで外筒の向きを変えられます。
- ・ 保護網やスイッチパネルを持って角度を変えないでください。保護網やスイッチパネルが破損するおそれがあります。

(3) ハンドルを確実に締め付ける。



使い方

移動のしかた／延長コードを使用する場合／ダクトを使用する場合

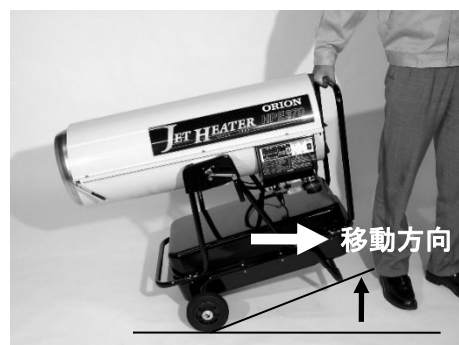
移動のしかた



注意

- 燃焼中は移動しないでください。やけどや転倒による火災の原因になります。
- 製品を必要以上に傾けないでください。転倒により、ケガをするおそれがあります。また、油タンクから灯油が漏れ、環境汚染や火災の原因になります。

1. 写真のように把手を持ち、脚を浮かせて手前へ移動してください。



延長コードを使用する場合



注意

- 延長コードは許容電流を確認し、正しく使用してください。また、巻いたまま、束ねたまま使用しないでください。発熱・発火などの原因になります。

延長コードを使用する場合は、次の表を目安にしてください。

延長コードの長さ	30m	60m	90m	120m
コードの公称断面積	2mm ²	3.5mm ²	5.5mm ²	8mm ²

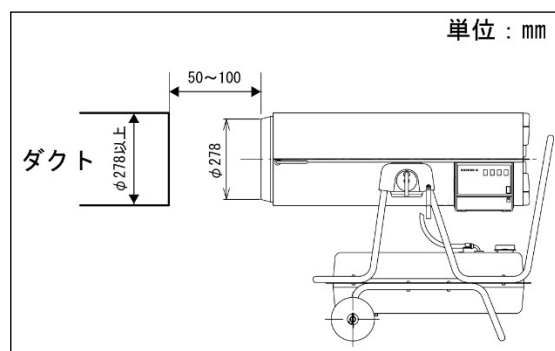
ダクトを使用する場合



警告

- ダクト径を絞ったり密着させると不完全燃焼し、一酸化炭素中毒のおそれがあり危険です。
- ダクト周囲の2m以内に可燃物を置かないでください。火災の原因になります。

1. ダクトを使用する際は、下記事項を厳守する。
 - ・ ダクトは熱風吹出口より必ず50～100mm離して使用してください。
 - ・ ダクトはヒーター径よりも太い径で、不燃性の材料のものを使用してください。



点検・手入れのしかた

使うたびに



警告

- 燃焼状態の確認、送風ファンの確認、対震自動消火装置の作動確認を除き、点検、手入れは、必ず電源プラグをコンセントから抜いて作業してください。感電や送風ファンによるケガの原因になります。



注意

- 消火直後は、ルーバー、外筒カバーなどは 100℃以上の高温になっています。燃焼中および消火後 30 分間は手をふれないでください。
- ケガの防止のため、軍手などの保護手袋を着用して作業してください。

使うたびに



警告

- 異常を確認したときは、直ちに使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。異常のまま使用を継続すると、ヒーター本体の焼損や火災の原因になります。



注意

- 燃焼状態の確認は、やけどなどの事故を防止するため、ヒーターから 3m 以上離れて行ってください。

1. 運転前の確認

- ・ ヒーター周囲の可燃物との距離は確保されているか、また、スプレー缶などが無いか必ず確認してください。
- ・ ヒーター本体に油漏れや油たまり、油のにじみが無いか確認してください。
- ・ 外筒の塗装に変色（焼け）が無いか確認してください。変色があるとヒーター内部に異常があるおそれがあります。
- ・ ヒーター周囲の床に油が垂れたしみが無いか確認してください。

2. 燃焼状態の確認

燃焼中に次の異常が無いか確認してください。

- ・ 臭いがする。
- ・ 熱風吹出口から頻繁に炎が飛び出す。
- ・ 熱風吹出口から時々すすが出る。
- ・ 熱風吹出口から時々油滴が飛び出す。
- ・ 熱風吹出口から油が垂れたり、床に油が垂れたしみがある。
- ・ 炎が大きくなったり、小さくなったりする。または消火・着火を繰り返す。
- ・ 異常音や異常振動する。

3. 送風ファンの確認

- ・ 燃焼中に送風ファンが回転しているか確認してください。

重要事項

- 燃焼状態の確認は、やけどなどの事故を防止するため、ヒーターから 3m 以上離れて行ってください。
- 異常燃焼や油ダレがある場合は、電源プラグを抜かないでください。運転スイッチを切り約 3 分間の冷却運転が終わってから電源プラグをコンセントから抜いてください。電源プラグを抜いて消火すると、ファンによる冷却運転が出来ないためヒーター内部が高温になり、内部の垂れた灯油に引火し、ヒーター本体の焼損や火災のおそれがあります。

点検・手入れのしかた

1 ヶ月に 1 回以上

1 ヶ月に 1 回以上

1. 対震自動消火装置の点検

- ・対震自動消火装置が作動することを確認してください。

■対震自動消火装置の作動確認のしかた

- (1) 移動用把手を持ち、ヒーターを水平にゆする。
- (2) 対震自動消火装置が働き、消火することを確認する。

2. フィルターエレメントの点検

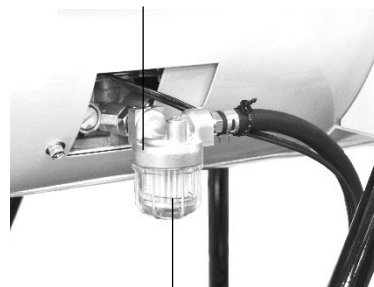
- ・フィルターケース内のエレメントを確認し、汚れているときは、フィルターエレメントの掃除をしてください。
- ・汚れが著しいときは、新品のフィルターエレメントと交換してください。(エレメントのご注文は、お買い上げの販売店にご相談ください)

■フィルターエレメントの掃除のしかた

- (1) フィルターケースをゆるめて外す。
- (2) フィルターエレメントを外し(下へ抜く)、灯油で洗う。
- (3) 元通りに組み立てる。

- ・フィルターケースは手で確実に締め付けてください。

フィルターケース



フィルターエレメント

3. 給油口キャップ通気穴の点検

- ・給油口キャップ通気穴が詰まっていないことを確認してください。

■給油口キャップ通気穴の確認のしかた

- (1) 給油口キャップを外し、通気穴が詰まっていないことを確認する。
- (2) 通気穴が詰まっているときは、針金などでゴミを取り除いてください。

通気穴



点検・手入れのしかた

1 シーズンに 2～3 回／炎検出器の掃除のしかた

1 シーズンに 2～3 回

1. 油タンクの掃除（水抜き）

- ・ヒーター保管時は必ず油タンクの掃除を行ってください。
 - ・フィルターケース内に水がたまっていたり、フィルターエレメントにゴミの付着が多い場合も同様に掃除を行ってください。
- (1) 油タンク内の灯油を、給油ポンプで抜く。
 - (2) 油タンクのドレンプラグの下に油受けを置く。
 - (3) ドレンプラグを外し、残った灯油をゴミや水とともに抜く。
 - (4) ドレンパッキンが破損していないことを確認して、ドレンプラグと一緒に確実に締め付ける。



2. 燃焼状態の点検（炎の飛び出し、すすの発生等）

- ・粉塵等が多い使用環境によっては燃焼ファンに汚れが付着し、炎の飛び出し、すすの発生等の不完全燃焼になります。燃焼状態の確認（▶18 ページ参照）を行い、異常の場合はお買い上げの販売店へ点検の依頼をしてください。

3. 炎検出器の掃除

- ・次の手順を参照し、炎検出器の掃除を行ってください。

4. 電源プラグの点検

- ・電源プラグにほこりが付着していないことを確認してください。

■電源プラグの確認のしかた

- (1) 電源プラグをコンセントから抜く。
- (2) 電源プラグの周りにほこりが付着していないことを確認する。
- (3) ほこりが付着しているときは、取り除いてください。

炎検出器の掃除のしかた



警告

- 電源プラグをコンセントから抜いて作業してください。感電のおそれがあります。
- 送風ファンが止まっていることを確認してから作業をしてください。ケガのおそれがあります。



注意

- ケガの防止のため、炎検出器の掃除の際は、軍手などの保護手袋を着用して作業をしてください。

点検・手入れのしかた

炎検出器の掃除のしかた

1. 外筒カバーを固定している 6 本のネジをドライバにてゆるめ、外筒カバーを外す。

ネジ（両側で 6 ヶ所）



外筒カバー



2. 炎検出器を採光管より抜く。

採光管

炎検出器

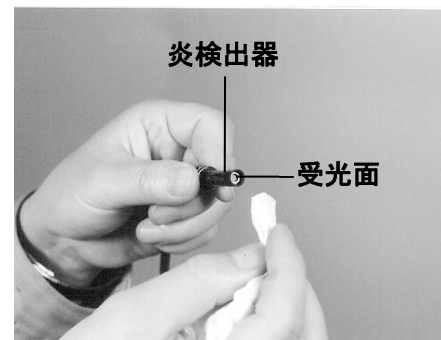


しゃ熱板 2
(HPE370 のみ)

3. 炎検出器の受光面のすす、ほこり等を取り除く。
柔らかい布又は綿棒等で受光面についているすす、
ほこり等を取る。
※炎検出器が入っている採光管先端部の穴が、
ほこりで詰まっているときは、掃除してください。
4. 炎検出器を元通りに差し込む。このとき、炎検出器の
凸部と採光管側の凹部を合わせる。

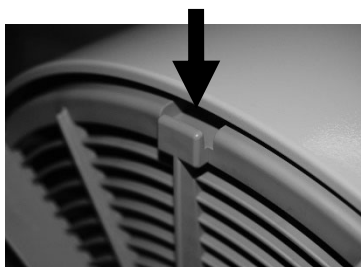
炎検出器

受光面

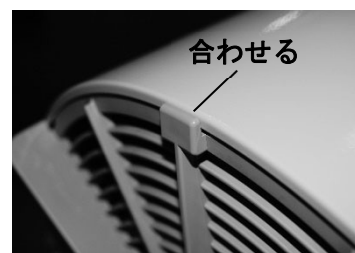


5. 外筒カバーを取り付ける。

※外筒カバーを取り付ける際、外筒カバーの縁曲げ部と保護網の溝が合うようにはめ込んでください。（写真参照）



合わせる



定期点検

長期間ご使用になりますと機器の点検が必要です。点検を受けないと、予想しない事故が発生するおそれがあります。未然に事故を防止するため、定期点検を依頼してください。（有償となります）

■実施時期

2 シーズンに1 回程度、シーズン初めやシーズン終了時に定期点検を依頼してください。特に、使用時間が長い場合や、ほこりの多いところ、湿度の高いところなどでご使用の場合は、1 シーズン毎の点検が必要となりますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

■ご依頼先

お買い上げの販売店

■定期点検の内容

1. 設置状態の点検・確認
2. 安全装置および運転状態の点検・確認
3. 環境や使用時間により劣化しやすい部品の点検・確認など
4. 製品の清掃・整備

■定期点検費用

定期点検の費用については、お買い上げの販売店にご相談ください。定期点検の結果、部品交換および修理等が必要な場合は、処置内容および費用についてお客さまにご相談申し上げます。

異常のとき

故障・異常早見表



警告

- 次の表に従って確認や処置を実施しても改善しない場合や、原因が不明な場合は、直ちに使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。異常のまま使用を継続すると、ヒーター本体の焼損や火災の原因になります。



注意

- 燃料切れ以外で、点火操作を 3 回繰り返しても点火しない場合は、それ以上操作をしないでください。点火操作を 4 回以上繰り返して点火したときには、熱風吹出口より炎が出ることがあります。また、火災の原因になります。お買い上げの販売店にご相談ください。
- 確認や処置の際には、必ず電源プラグをコンセントから抜いて作業してください。感電や送風ファンによるケガの原因になります。

故障・異常早見表

現象		原因	処置のしかた
安全装置が作動した	運転ランプが赤の点滅	・ 停電があった。 ・ 運転スイッチ「入」にして電源プラグをコンセントに差し込んだ。	・ スイッチを「切」にしリセットする。
	電圧警報ランプが点灯	・ 電源電圧が異常に低い。	・ 電源電圧を確認し、100±10V 以内で使用する。
	電圧警報ランプが点滅	・ 電源電圧が異常に高い。	・ 電源プラグを即座に抜き、電源電圧を100±10V 以内ににする。(警報が出て電源プラグを差し込んだままにしておくと、故障します。)
	ファン異常警報ランプが点滅	・ 燃焼ファンの故障。	・ 使用をやめ、販売店に連絡する。
	過熱警報ランプが点滅	・ 送風ファンの故障。	・ 使用をやめ、販売店に連絡する。
		・ 熱風吹出口に風が吹き込んでいる。 ・ 空気取入口にシート等が貼りついた。 ・ 電源電圧が低い。	・ 左記の原因を取り除き、ヒーターが冷却するまで、運転をやめる。
	失火警報ランプが点滅	・ 燃料切れで消火した。 ・ 炎検出器の受光面が汚れている。 ・ 燃料の不良 (変質灯油、水の混入等)。 ・ フィルターエレメントの詰まり。 ・ 給油口キャップの通気穴の詰まり。	・ 油量計を確認し、給油する。 ・ 炎検出器を掃除する。(P21 参照) ・ 油タンクを掃除する。(P20 参照) ・ エレメントを掃除する。(P19 参照) ・ 通気穴を掃除する。(P19 参照)
	外光警報ランプが点滅	・ 熱風吹出口に太陽光が差し込んでいる。	・ ヒーターの向きを変える。
振動警報ランプが点滅		・ ヒーターが傾いている。 ・ 強い地震や振動、衝撃が加わった。	・ 振動のない、水平な場所で使用する。
警報は出ないが燃焼状態が異常 (炎の連続的な飛び出し、臭いがする、煙が出たり油ダレする等)		・ 燃料の不良 (変質灯油、水の混入等)。 ・ フィルターエレメントの詰まり。 ・ 燃焼ファンが汚れている。 ・ 給油口キャップの通気穴の詰まり。	・ 失火警報ランプが点滅時の処置を参考に確認する。原因が不明の場合は、使用をやめ、販売店に連絡する。
運転スイッチを「入」にしても運転しない。(運転ランプも点灯しない)		・ 過負荷保護装置 (ヒューズ) が作動。	・ 販売店に連絡する。

異常のとき

安全装置一覧

安全装置一覧表

装置のなまえ	はたらき	ランプ表示
対震自動消火装置	強い地震や衝撃を受けたときに自動消火します。	振動警報ランプ点滅
点火安全装置	点火ミスや燃料切れ、異常燃焼のときに自動消火します。	失火警報ランプ点滅
停電安全装置	停電後に復電しても、運転開始することを防止します。	運転ランプが赤の点滅
過熱防止装置	ヒーター内部が異常過熱したときに自動消火します。	過熱警報ランプ点滅
過負荷保護装置（ヒューズ）	過電流が流れた時に電気回路をしゃ断し、運転停止します。	運転ランプ消灯
高電圧停止装置	電源電圧が異常に高いときに運転停止し、警報を出します。	電圧警報ランプ点滅
低電圧警報装置	電源電圧が異常に低いときに警報を出します。	電圧警報ランプ点灯
ファン回転異常停止装置	燃焼ファンの回転状態が異常のときに自動消火します。	ファン異常警報ランプ点滅

※安全装置作動後の再点火操作は、異常を取り除いた後に行ってください。

消耗部品

定期交換部品／点検交換部品／安全に関わる樹脂部品の保全について

定期交換部品（指定された時期に定期的に交換する部品）

	部品番号	部品名称	員数／台	交換時期
1	80000022560	フィルタエレメント	1	1 シーズン毎
2	0A001057000	ノズル（HPE250 用）	1	2 シーズン毎
3	04A30198010	ノズル（HPE370 用）	1	3 シーズン毎

※交換時期は、一般的な使用条件における予防保全（使用中の故障を未然に防止するために計画的に行う部品交換等）としての目安です。

※交換時期は保証期間ではありません。また、製品の使用環境、運転条件等により、交換時期前に交換が必要となる場合があります。

※ノズルの交換は、専門技術を要しますのでお買い上げの販売店にご相談ください。

点検交換部品（点検時の消耗、劣化状態に応じて交換する部品）

	部品番号	部品名称	員数／台	点検時期	交換判定基準
1	04101491030	ハイテンオイルホース（灯油ホース）	1	1 シーズン毎	表面亀裂の有無
2	03038258010	給油口フィルタ	1	1 シーズン毎	破損の有無
3	03041199010	給油口キャップ（オイルキャップ組立）	1	1 シーズン毎	破損の有無
4	03044399010	HPE250 用	1	1 シーズン毎	消耗・変形の有無
	03039329010	HPE370 用			
5	04103663010	HPE250 用	1	1 シーズン毎	異音の有無 回転の状態
	0A002180000	HPE370 用			
6	0A004380000	HPE250 用	1	1 シーズン毎	異音の有無 回転の状態
	0A004378000	HPE370 用			
7	0A002737000	HPE250 用	1	1 シーズン毎	異音の有無 油量の減少
	0A002738000	HPE370 用			

●上記部品の交換は、専門技術を要しますのでお買い上げの販売店にご相談ください。

安全に関わる樹脂部品の保全について



注意

下記安全に関わる樹脂部品については、破損・変形が生じた場合速やかに交換してください。交換しないとケガの原因になります。

	部品番号	部品名称	員数／台	点検時期	交換判定基準
1	02035497010	保護網	1	使用毎	破損・変形の有無



アクセサリ（別売品）

アクセサリ（別売品）についてのご相談は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

1. アクセサリ（別売品）リスト

	部品番号	部品名称	員数／台	仕様
1	03113301010	サーモスタット（高温用）	1	20℃～110℃
2	03107226010	サーモスタット（低温用）	1	10℃～30℃
3	03107226020	サーモスタット（低温用）	1	0℃～20℃
4	03040081010	サーモスタット（防湿型）	1	5℃～40℃
5	03037841010	タイマ	1	
6	03007023010	オイルレベラー	1	

必ず純正部品を使用してください。使用の際は、部品に付属の取扱説明書をよく読んで使用してください。

2. サーモスタット・タイマの接続のしかた

サーモスタットまたはタイマを接続するときは、部品に付属の取扱説明書をお読みのうえ、次のように接続してください。運転のしかたは、部品に付属の取扱説明書を参照願います。

- (1) スイッチパネルのサーモ接続口に取り付けられている短絡プラグを外す。
- (2) サーモスタットまたはタイマのプラグを、サーモ接続口に差し込む。

重要事項

- サーモ接続口に、その他のプラグを差し込んだり、電圧をかけないでください。故障します。
- サーモスタットを取り付けた場合、サーモスタットの温度感知部は温風が直接当たる所に置かないでください。頻繁に ON（燃焼）／OFF（消火）を繰り返し、故障の原因になります。

保管のしかた



注意

●灯油を入れたまま保管しないでください。温度変化で空気が結露して油タンク内に水がたまり、油タンク底に錆が発生します。油タンクの腐食による穴あきで、油タンク内の灯油が漏れて環境汚染や火災の原因になります。また、長期間保管した灯油は変質し、それを使用すると不完全燃焼の原因になります。

1. 電源プラグをコンセントから抜く。
2. 油タンク内の灯油を抜く
 - ・「油タンクの掃除」(☞20 ページ参照)に従って灯油を抜いてください。灯油を抜かないと、たまった水により油タンクが錆びて穴あきの原因になります。
3. ヒーター本体のほこりや汚れを取り除く。
4. シート等をかけて湿気の少ない屋内で保管する。
 - ・雨水がかかったり、湿気の多いところには保管しないでください。

廃棄について

製品を廃棄するときは、油タンク内の灯油を抜いた後、「廃棄物の処理および清掃に関する法律」に準拠し、必ず専門の産業廃棄物処理業者に委託して処理をしてください。

アフターサービス

■保証について

- ・巻末が保証書となっています。大切に保管してください。
- ・保証期間中でも消耗部品等は有償となる場合があります。保証書をよくお読みください。
- ・保証期間経過後は有償修理となります。修理箇所および修理内容や経過年数によっては新規購入をお奨めする場合がありますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

■点検・修理を依頼される前に

- ・「異常のとき」(☞23 ページ参照)に従い確認、処置をしてください。
- ・その上で改善しない場合、またはご不明な点がある場合は、ご自身で修理なさらずに、お買い上げの販売店にご相談ください。

■補修用性能部品について

- ・補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- ・この製品の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後7年です。

■アフターサービスの依頼

- ・点検、修理のお申しつけのときは、巻末の「点検・修理依頼シート」にご記入いただき、販売店にお渡しください。

■部品のお申し込みをされるときは、次の事項をお知らせください。

- ・型式名
- ・製造番号
- ・部品名・部品番号・個数

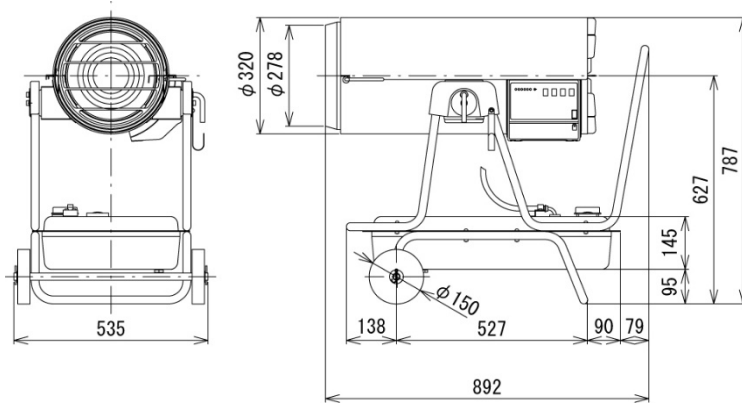
仕様

HPE250

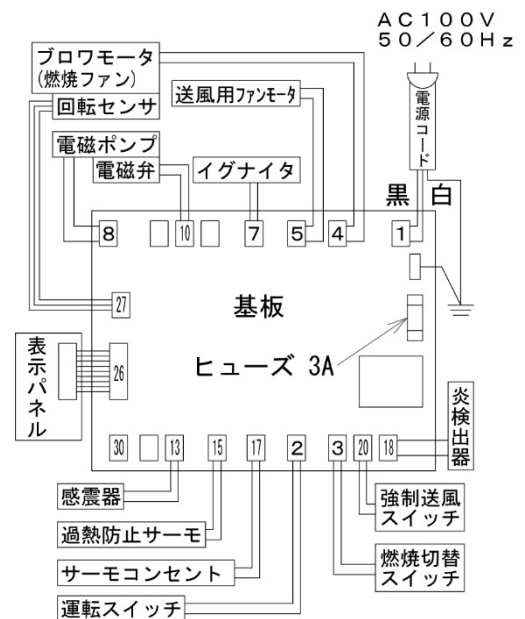
仕様表

種類	熱風式直火形
形式	HPE250
熱出力	強：29.2kW、弱：20.0kW
燃料消費量	強：3.0L/h、弱：2.1L/h
油タンク容量	30L
燃焼持続時間	強：10時間、弱：14時間
外形寸法図	高さ 787 mm × 幅 535 mm × 奥行 892 mm
製品質量（油タンク空時）	33kg
定格電圧および周波数	単相 100V 50/60Hz
定格消費電力（50/60Hz）	点火時 115/136W（強燃焼時） 燃焼時 101/124W（強燃焼時）
運転音（50/60Hz）	68/69dB（強燃焼時）
燃焼方式	高圧噴霧式
安全装置	対震自動消火装置 点火安全装置 停電安全装置 過熱防止装置 過負荷保護装置 高電圧停止装置 低電圧警報装置 ファン回転異常停止装置
ヒューズ	ガラス管ヒューズ（φ5.2×20、125V・3A）

外形寸法図 単位（mm）



配線図



仕様

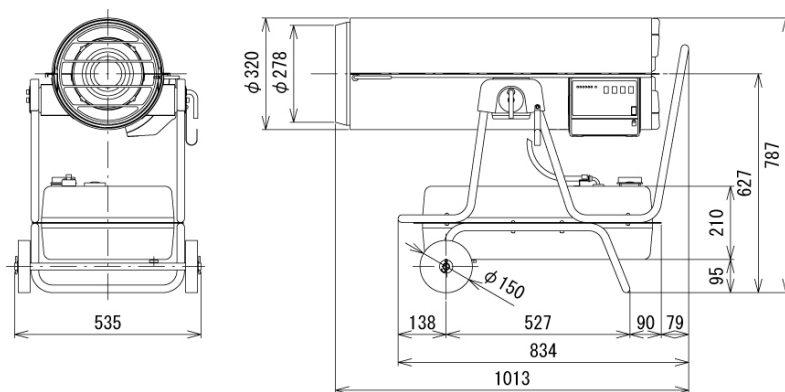
HPE370

■仕様表

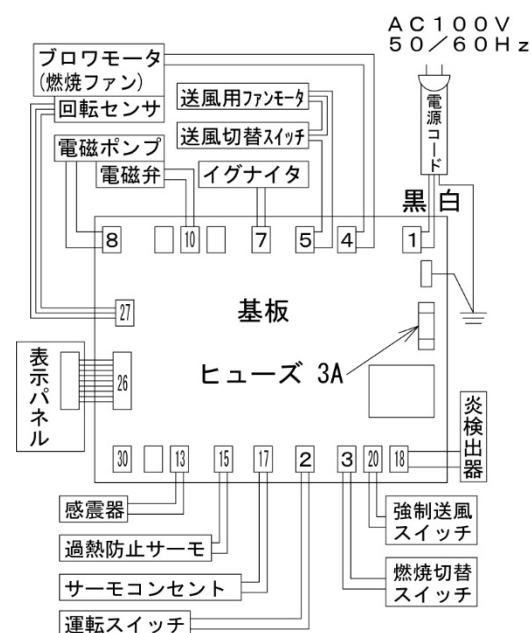
種類	熱風式直火形
形式	HPE370
熱出力	強：43.0kW、弱：32.0kW
燃料消費量	強：4.4L/h、弱：3.3L/h
油タンク容量	46L
燃焼持続時間	強：10時間、弱：14時間
外形寸法図	高さ 787 mm×幅 535 mm×奥行 1,013 mm
製品質量（油タンク空時）	36kg
定格電圧および周波数	単相 100V 50/60Hz
定格消費電力（50/60Hz）	点火時 150/160W（強燃焼時） 燃焼時 120/135W（強燃焼時）
運転音（50/60Hz）	70/71dB
燃焼方式	高圧噴霧式
安全装置	対震自動消火装置 点火安全装置 停電安全装置 過熱防止装置 過負荷保護装置 高電圧停止装置 低電圧警報装置 ファン回転異常停止装置
ヒューズ	ガラス管ヒューズ（φ5.2×20、125V・3A）

■外形寸法図

単位（mm）



■配線図



* ご記入日 年 月 日

点検・修理依頼シート

※この用紙をコピーしてお使いください
※ * は必須項目

お客様 情報	* 会社名	フリガナ			
	* 部署名		* お名前	フリガナ	
	* 電話番号		FAX		
	携帯番号		メールアドレス		
	* ご住所	〒 ー 都・道 府・県 郡・区・市 ビル名 棟・階			
購入先 販売店 情報	* 会社名				
	ご担当部署		* ご担当者指名		
	* 電話番号		FAX		
ご依頼 製品情報	*MODEL (型式)			*SERIAL No. (製造番号)	
	*LIST No. (特注番号)			仕様書 No.	
	納入日			* 不具合 発生日	年 月 日
	* 設置状況	☐ 屋内	☐ 屋外	☐ クリーンルーム	クリーンスーツ借用 可 ・ 否
		☐ 屋根有り	☐ 高所	具体的な場所	
	* ご依頼内容 (不具合情報)	エラー番号 []			
* 希望修理依頼	☐ 出張修理		☐ 引取修理	☐ 持込修理	☐ 送付修理
	☐ 土日、祭日指定		☐ 時間指定有り	AM・PM 時 分 ~ 時 分	
出張修理 入門条件	* 事前入場書類	☐ 必要	☐ 不要	必要枚数：()枚程度	連絡事項
	* 講習	☐ 必要	☐ 不要	☐ 事前	☐ 当日
	* 持ち物	ヘルメット・帽子・安全帯・脚絆・安全靴・保護メガネ・耳栓・内履き・クリーンスーツ・防塵マスク 防毒マスク・その他 ()			
	立会者	☐ 有	☐ 無	会社名	氏名
* 工事写真	☐ 必要	☐ 不要	書式指定	☐ 有	☐ 無
* 事前見積り要否	☐ 必要	☐ 不要			

注意事項

- 記載内容が不足している場合は、修理受付不可となる場合がございますのでご了承願います。
- 修理のご依頼はご購入先販売店にご連絡をお願いします。ご連絡時に必ず本紙もお渡しください。
- 修理品をお送りいただく際の送料はお客様ご負担とさせていただきます。
- 点検費はお客様ご負担とさせていただきます。
- 点検後、修理不可となった場合でも点検費はお客様ご負担とさせていただきます。
- メーカー以外の改造が有る場合は修理が出来ない可能性があります。
- お客様にて分解された場合は修理が出来ない可能性があります。
- 販売から長期間経過している製品は修理が出来ない可能性があります。



Excel シート Word シート

<https://www.orionkikai.co.jp/contact/repair/>

点検・修理依頼シート記入例

仕様プレート（ジェットヒーターなど）

PS		04043974010	
定格電圧	100V	形 式	HRS330
定格周波数	50/60 Hz		
定格消費電力		燃料消費量	4.0 L/h
点火時	69/71W	使用燃料	灯油（JIS1号灯油）
燃焼時	95/115W	油タンク容量	40 L
オリオン機械株式会社		製造番号	

仕様プレートはキャビネットに貼り付けてあります。
正確に記入をお願いします

修理実施にあたって
お客様にご確認のため
お電話で連絡させて
いただく事があります。
確実に連絡のつく番号を
ご記入ください

点検・修理依頼シート

※この用紙をコピーしてお使いください
※*は必須項目

お客様 情報	* 会社名	フリガナ ○○○○カブシキガイシャ ○○○○株式会社		
	* 部署名	設備課	* お名前	フリガナ ナガノ タロウ 長野 太郎
	* 電話番号	03-1234-XXXX	FAX	03-1234-△△△△
	携帯番号	090-1234-XXXX	メールアドレス	
購入先 販売店 情報	* ご住所	〒382-0000 長野 都・道 須坂 郡・区・市 幸高〇-〇-〇		
	* 会社名	株式会社○○○○		
	* 担当部署		* ご担当者名	東京 太郎
	* 電話番号	03-1234-XXXX	FAX	03-1234-△△△△
ご依頼 製品情報	* MODEL (型式)		* SERIAL No. (製造番号)	
	* LIST No. (特注番号)		仕様書 No.	
	納入日	20××年 ××月 ××日	* 不具合 発生日	20××年 ××月 ××日
	* 設置状況	☐ 屋内 ☒ 屋外 ☐ クリーンルーム クリーンスーツ着用 可 ・ 否 ☐ 屋根有り ☒ 高所 具体的な場所 3階建ての屋上に設置		
* ご依頼内容 (不具合情報)	エラー番号 [E△△△] エラー番号 E△△△が発生し停止。リセットを行い運転させるも数分で再発。			
* 希望修理依頼	☒ 出張修理 ☐ 引取修理 ☐ 持込修理 ☐ 送付修理 ☐ 土日、祭日指定 ☒ 時間指定有り AM・PM 5時 00分 ~ 時 分			
出張修理 入門条件	* 事前入場書類	☐ 必要 ☒ 不要 必要枚数: ()枚程度 連絡事項		
	* 講習	☐ 必要 ☒ 不要 ☐ 事前 ☐ 当日 事前講習時間 時間 分		
	* 持ち物	ヘルメット・帽子・安全帯・脚絆・安全靴・保護メガネ・耳栓・内履き・クリーンスーツ・防塵マスク 防毒マスク・その他 ()		
	立会者	☐ 有 ☒ 無	会社名	氏名
* 工事写真	☐ 必要 ☒ 不要	書式指定	☐ 有 ☐ 無	
* 事前見積り要否	☒ 必要 ☐ 不要			

注意事項

- 記載内容が不足している場合は、修理受付不可となる場合がございますのでご了承願います。
- 修理のご依頼はご購入先販売店にご連絡をお願いします。ご連絡時に必ず本紙もお渡しください。
- 修理品を送りいただく際の送料はお客様ご負担とさせていただきます。
- 点検費はお客様ご負担とさせていただきます。
- 点検後、修理不可となった場合でも点検費はお客様ご負担とさせていただきます。
- メーカー以外の改造が有る場合は修理が出来ない可能性があります。
- お客様にて分解された場合は修理が出来ない可能性があります。
- 販売から長期間経過している製品は修理が出来ない可能性があります。



Excelシート Wordシート

<https://www.orionkikai.co.jp/contact/repair/>

お客様情報について

「点検・修理依頼シート」に記載いただきましたお客様の個人情報は細心の注意をもって管理いたします。
この情報は機器の修理、製品およびサービスの品質向上、修理に係る問合せ、アンケート調査等に利用させていただきます。また、この目的のためにオリオン関連会社または業務委託先などに提供する場合が有りますのでご承知おきください。

メモ

保 証 書

本製品の保証内容は、下記のとおりです。保証修理をお受けになる場合は、機種名と製造番号をご確認のうえ、お買い上げの販売店へご連絡ください。

1. 保証期間

お買い上げ後 1 年間

2. 保証範囲

- (1) 上記保証期間中に当社側の責任による故障が発生した場合は、製品の故障部分の交換または修理を無償で実施いたします。ただし、ご使用される国・地域によっては修理対応ができない場合や時間を要す場合がありますので、日本国外で修理をお受けになる場合は、お買い上げの販売店に別途ご相談ください。
- (2) 取扱説明書の故障診断に沿った確認は、原則としてお客様にて実施をお願いいたします。ただし、ご要望により当社サービス網がこの業務を代行することができます。この場合、故障原因が当社側にある場合は無償といたします。
- (3) 保証期間内であっても、以下の場合は有償修理（保証対象外）とさせていただきます。
 - ① 仕様書・取扱説明書等に記載されている以外の不適切な使用条件・環境・取扱い・使用方法・用途、およびお客様の不注意や過失等起因する故障
 - ② 当社製品以外（お客様の装置やソフトウェアの設計等）の原因による故障
 - ③ 当社指定サービス業者以外による修理や改造に起因する故障
 - ④ 当社製品がお客様の装置に組み込まれて使用された場合、お客様の機器が受けている法的規制による安全装置、または業界の通念上備えられているべきと判断される機能・構造等を備えていれば回避できたと認められる故障
 - ⑤ 取扱説明書等に記載された定期点検や消耗部品の保守・交換が正常に実施されていれば回避できたと認められる故障
 - ⑥ 消耗部品（点検および定期交換部品）の交換
 - ⑦ 火災等の不可抗力による外部要因、および地震・雷・風水害等の天変地異による故障
 - ⑧ 当社出荷時の科学技術の水準では予見できなかった事由による故障
 - ⑨ 腐食性ガス・有機溶剤・化学薬品溶液等の雰囲気、およびこれらが付着する可能性のある環境下での使用による製品腐食に起因する故障
- (4) 個別契約等にて別途定めがある場合は、それを優先いたします。

3. 保証責務の除外

保証期間を問わず、当社の責に帰すことができない事由から生じた障害・事故補償、当社製品の故障に起因するお客様での機会損失・逸失利益・二次損害・当社製品以外への損傷、およびお客様による交換作業・現地機械設備の再調整・試運転業務に対する補償については、保証責務外とさせていただきます。

4. 用途限定

- (1) 本製品を重要な設備に適用する際は、本製品が故障しても重大な事故や損失に至らないように、バックアップやフェールセーフ機能を設備側に設けてください。
- (2) 本製品は、一般工業向けの汎用品として設計・製造されています。したがって、下記のような用途は保証適用外とさせていただきます。ただし、お客様の責任において製品仕様をご確認のうえ、必要な安全対策を講じていただく場合には適用可否について検討いたしますので、当社までご相談ください。
 - ① 原子力・航空・宇宙・鉄道・船舶・車両・医療機器・交通機器等、人命や財産に多大な影響が予想される用途
 - ② 電気・ガス・水道の供給システム等、高い信頼性や安全性が要求される用途



オリオン機械株式会社

Product Warranty

This product shall be warranted as follows. For warranty repairs, please contact the dealer where the product was sold after confirming the product model and serial number.

1. Warranty Period

- (1) One year from the date of purchase.

2. What Is Covered by this Warranty

- (1) If breakdown occurs within the above warranty period and the cause of the breakdown lies with ORION, then the damaged part(s) will be replaced or repaired by ORION free of charge. Note that depending on the country/region where the product is being used, repairs may take more time or be impossible. Please consult with your dealer in advance regarding service and repair options for products to be operated outside of Japan.
- (2) In principle, the owner of the product will confirm diagnosis of the breakdown according to the operating manual. However, there might be cases where this work may be carried out instead by a member of ORION's service network. In such cases, there will be no charge where the cause of the breakdown lies with ORION.
- (3) Note that even during the warranty period, there will be costs incurred by the user (outside the warranty) in the following cases:
 - ① Breakdown resulting from operating under unsuitable operating conditions, environment, handling, use, or method of operation outside those written in the specifications or operating manual of the product, or as a result of carelessness or negligence on the part of the user.
 - ② Breakdown resulting from non-ORION equipment (user's own equipment or software design, etc.).
 - ③ Breakdown resulting from repairs or modifications conducted by non-ORION designated contractors.
 - ④ Breakdown which could be recognized as being avoidable in cases where an ORION product is used in conjunction with the user's equipment where the user's equipment is legally regulated to have a safety device whereby inclusion of the safety device could have averted breakdown, or in cases where the addition of function, structure, etc., could have, according to common knowledge of the industry, averted breakdown.
 - ⑤ Any breakdown which is recognized as being avoidable had normal fixed term inspections, and/or normal maintenance and replacement of consumables, been performed as indicated in the operating manual, etc.
 - ⑥ Replacement of consumables (parts to be replaced at fixed terms or based on inspection).
 - ⑦ Breakdown due to external factors beyond human control such as fire etc. or breakdown resulting from natural disaster such as earthquake, lightning, storm and flood damage, etc.
 - ⑧ Breakdown due to reasons unforeseeable due to the technological standard at the time the product was shipped from ORION.
 - ⑨ Breakdown resulting from corrosion caused by operating the product in an atmosphere that contains corrosive gases, organic solvents, chemical solutions, etc. or in an environment where such substances could come into contact with the product.
- (4) In cases where a separate contract, etc. has been established, that contract will take priority.

3. Warranty Obligation Exclusions

Regardless of the warranty period, compensation for any of the following will not fall under the obligations of this warranty: any hindrance or accident compensation resulting from reasons not under ORION's obligations; any lost opportunities, lost profit, secondary losses, damages to non-ORION products incurred by users resulting from the breakdown of ORION products; and any replacement work, readjustment of on-site machinery and equipment, and operating work by users.

4. Product Use Limitations

- (1) When using ORION products in connection with important facilities, be sure to establish backup and/or failsafe measures so that even in the event of breakdown of such products, such breakdown will not lead to serious accidents or losses.
- (2) ORION products are designed and produced as general purpose equipment to be used in general industrial applications. Therefore, this warranty will not apply when used in the following applications: However, in cases where the customer/user takes full responsibility and confirms the performance of the product in advance, and takes necessary safety precautions, please consult with ORION and we will consider if use of the product in the desired application is appropriate.
 - ① Atomic energy, aviation, aerospace, railway works, shipping, vehicles (cars and trucks), medical applications, transportation applications, and/or any applications where it might have a great effect on human life or property.
 - ② Electricity, gas, or water supply systems, etc. where high levels of reliability and safety are demanded.



ORION MACHINERY CO., LTD.



オリオン機械株式会社

<https://www.orionkikai.co.jp>

当社製品に関するお問合せ・資料請求は

お客様相談センター

✉ sijo@orionkikai.co.jp



☎ 0120-958-076

受付時間 平日 9時～17時

FAX 026-246-6753

CSセンター：札幌・仙台・太田・横浜・諏訪・名古屋・大阪・岡山・福岡

本社・工場 〒382-8502 長野県須坂市大字幸高246

更 埴 工場 〒387-0007 長野県千曲市大字屋代1291

千 歳 工場 〒066-0077 北海道千歳市上長都1051-16

北海道オリオン株式会社(札幌) 011-865-3666	オリオン機械株式会社(諏訪) 0266-58-7535
中央オリオン株式会社(盛岡) 019-641-4554	オリオン機械株式会社(沼津) 055-929-0155
中央オリオン株式会社(仙台) 022-284-0691	オリオン機械株式会社(浜松) 053-464-4737
中央オリオン株式会社(郡山) 024-963-1051	オリオン機械株式会社(刈谷) 0566-62-4377
オリオン機械株式会社(東京) 03-6811-7711	オリオン機械株式会社(名古屋) 0587-21-1717
オリオン機械株式会社(八王子) 042-631-5561	オリオン機械株式会社(金沢) 076-263-1881
オリオン機械株式会社(横浜) 045-934-7011	オリオン機械株式会社(大阪) 06-6305-1414
オリオン機械株式会社(千葉) 043-221-7788	オリオン機械株式会社(京都) 075-646-3939
オリオン機械株式会社(太田) 0276-46-7678	オリオン機械株式会社(神戸) 078-945-5508
オリオン機械株式会社(さいたま) 048-783-3975	オリオン機械株式会社(岡山) 086-246-3501
オリオン機械株式会社(宇都宮) 028-688-0020	オリオン機械株式会社(広島) 082-264-4535
オリオン機械株式会社(つくば) 029-850-3633	オリオン機械株式会社(高松) 087-835-1367
オリオン機械株式会社(新潟) 025-257-7006	西日本オリオン株式会社(福岡) 092-477-8480
オリオン機械株式会社(長野) 026-248-2428	西日本オリオン株式会社(熊本) 0968-38-7311
	西日本オリオン株式会社(鹿児島) 099-263-5275

便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です。)

お買いあげ日		製 造 番 号	
販 売 店 名		店 名	
		電話 () -	

☑ No. 7275 2024. 5. 15 TG N. T